



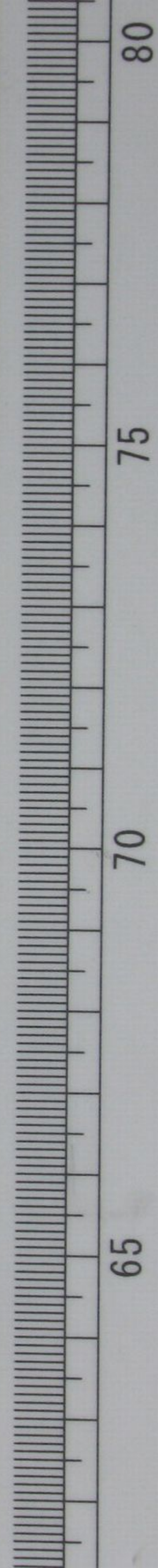
雅言俗語彙檢
地

中村俊定文庫

文庫 18

543

2



羽
檜
卷
末



○錦綉

沖具より池
 日なけりやの家也

鵝頭金欄

もろ
とげ
長承寺

七星^ノ目^ノ丸

花兔

兔苑子

鴛鴦

311

岐子
荒磯

魚岐

達

恆
一
一
孝

劍先

1

秘訣入遠し
沙の丸

嵯我十刀

城よきなり切てトミ夕
親迦の戸張をたり

東寺の宝相大師の御本の
下所まよのせしをばせり

銀閣寺
地白

大徳寺 白地石 銀錢 切 大鼓 たこ

角龍 永親堂 達仁寺 かたの 安房 あふ

古金 牡丹 切 山伏 印金

金紗 織部 糸 純子 有樂 純子 有樂

雁金 屋 純子 有樂 純子 有樂

漁倉 とんす 紹興 とんす 清和 とんす

場 切 宝珠 とんす 佐吉 とんす 佐吉 とんす

金 切 綸金 とんす 妙法 とんす 七条 とんす 大牡丹

小牡丹 鳥 定家 は 蜀江 奥 奥福

切 とんす 銀 切 銀 切

○唐木

鐵刀木 は 黒檀 花 多羅 白 檀

○草

印帝亞 俗 莫臥爾 草 波斯草

地久 胡徳子瓶子 髪子髪子 寺方寺方 王

○菩薩 胡飲酒 蘭陵王面 還城還城

ひまは。抜頭抜頭 採葉採葉 按摩按摩 ニ舞

睡久笑人の扇扇 娘娘 足足 方

○又 紙の面

○有 黒色 父尉 延命尉者 小面 深女

孫次郎 住吉乙 泥眼 生成 般若 破尉

朝日尉 筋男 耶郭男 大癒見 小癒見

大飛出 小飛出 鉤眼 弱法師

○能 狂言

○鳥帽子振 事廣 一 相合袴

今系 相合相合 福福 系 一 相合袴

花子 素袍落 通園 文彦 繩索繩索 叔母

酒 清少鬼 秋大名 八句連哥 ぼろ女

栗やき 腰祈 凡盗人 沟孤 唐相撲
名取川 福の神 三人も懸 梅志る 等
字編

○碁坐居手詠

撲	断	衝
繫	行	幹
結	擦	約
尖	點	飛
綽	跨	割
門	夾	粘
征	抄	頂
却	辟	觀
盤	刺	関
咀	革	お

抑ハサム 仿ハダシ 闕クハ 硬節コウセツ △贏イグ 碁イグ 碁イグ 輸シュ 日ヒ 賭カモ 持碁
助言 互先 定先 井目マイモク 総立ソウタテ

○将碁

○少将碁 和将碁 中将碁 天竺将碁 大将碁
大々将碁 摩マ 鰯カダ 太将碁 平牛 對馬 日上 先手
後手 手見持

○雙六スゴク

筒ドウ 双フタ子コ 罪ツミ 重オモシ食シ 雙フタののちちととじじ 攤タナ博ハク 重オモシ一イチ 重オモシ二ニ 朱シュ三サン 朱シュ四シ 重オモシ五ゴ 疊タテマシ六ロク 塞ササ 骰サイ同

双古子

罪

重食

双六のあそび
(枕草子)

權

博愛

○雅遊
雜混

雜
混

○ 投壺

一竹筭五筭十筭二十筭
日方司馬溫公投壺格
竹筭より

貝合又歌貝

此嘉禾
考之六貝

合とつ
しつよ

彈其石

源氏抄條にもにわ五雜題と云う
今の曲の石くきも源氏抄の巻はるまゝ

韻室

厚氏の厚に掩蔽せり

文字 漢字
一 せんごうのうれし

劔草

人も多しとかうお出で合はれ勝負を
青音百多と聞くられ前は是歳時記に
あ

○蹴鞠 御定 花鳥井 雅岐

御定

花名井

雅岐

○ 四本縣

松田
九郎

松二木梅紅紫
此近松梅柳

子集 日地 下

松三本紅葉

是友。垣守。恒。開。覽。

とこい

大々々

五子付

折炭木の

根枕

負^ヒあつ

樓臺

上

行

救

席

いふもふも

七夕 鞠の葉をもちて
つるるあり

目代長

者草

玩多井家

稽大明神

大は松本村

○七小町

○ 双纸洗小所
雨乞
通
清水

卒部
驚
驚
園寺

○七種菜

○ 苻 菴 鼠 麴 草 繫 要 佛 座 北 松

蘿藦

○秋七種花
萬葉

○萩尾花
葛花
按子
女郎花
藤袴

朝貌

○茶茗目録

○宇治系
柘尾系
信樂系近江
鹿溪系コタケ

その
芦久保原あしひさほ
川上原かわかみ
下妻原しもづま

仙靈ちりゆ
△柔橋
手始
り柔き柔

新柔 古柔 柔 撰 夏切柔

○
酒

伊丹、大坂

富士見酒

南都一忍冬一

き
菊一か
煉一博多
三
子
佐後
尾道一日
麻地一

保命一 出光一 栗盛三 梅一 葡萄一

狗杞コウキ | 桑コウ | 豆淋トリン | 味淋ミリン | 屠蘇トソ | 治聲シセイ |

燒酒シマウチウ
醴エザケ
一夜酒
茶藨麴トビロク
白酒
禾雪ハルニ

雞タマゴ郎酒
薯イモ蕷モ
土姜シヤウカ
隅田川江戶羽衣ハエ膠カウ聚ジュ

糟カス
新酒
古
金粉キンコ
費イナ盒子

○ 饒

○公仕餅 キンタウ
珠光―
椿―
柚―
外郎―
醒井 サカ―
毬 タマ―

鶉ヒナ 胡麻ゴマ 山椒シナヅサ 枰ヒナ 寒焼餅サムイロシロ 京丸山キョウマツ 割キレ 出デ

草丸山か
 やまし
 瓊珀
 紅梅
 あり

○古錢

○半両
五銖^ニ
貨泉^シ
布錢^{フセン}
男子^ヲと^シ婦人^ニと^シ佩^ル

男沙とよ婦人衣を佩せ六
男子とよ婦人衣を佩せ六

元通宝一と一沙目 嘉定沙いさ 永樂通宝日一

和同開珍 大黒沙 蛭子沙 駒子

題目 念仏 長命富貴 伊勢宮沙いせのみや

金沙 限一 新

調百 省百九十 銭坐 鉦

○忌 詞いせ 宮みや

佛中子 経 染紙 塔 阿良岐 寺 瓦菖

僧 髮長 尼 女髮長 弁 片膳 糸 奈保留

病 夜須美 哭 鹽 血 阿世 梅 穴 蘭

墓 壤 堂 香 燭 優 伎 塞 稱 角 箸

○鷹

白鷹 足 鷹 弟 鷄漢語抄 波之太賀又

兒 鷄 雀 鷄 雀 鷄 雀 鷄 雀 鷄 雀

鷄 鷄 鷄 鷄 鷄 鷄 鷄 鷄 鷄 鷄

喚フキ縄ヅナ
へと日ヒをふくまてと
大とくしてと云うはく云い
條ツラかきの
つとそ

今此の字は糖之
 了あゝと云う程の
 旋子 モトラシ
 足草と云はれ向ふけり
 金々々又用ふと作ふ
 昔 タタキ
 昔 タタキ
 (説文) 射臂背
 背 タタキ

[illegible]

外なりと云ふ中なりと同一に季のなりあり

僵衣 剛衣といふ

鈴子 鈴子といふ

流筆にも又所稱と云
 一のちよこにやうきぬ
 力もの
 大豊の山
 徒先
 ぬくとり
 文友ハた

色金
 之出宝中より又桐八葉と云ふ八路とすべ

○ゆゑに之を父に上りて子に下りて孫に及ぶは

[illegible][illegible]

ふーと、城と出て羽うはひやうと云ふは、いふの

しらぬと云ふ事と云ふ山は春ゆたふ

[illegible]

古傳之家の字多しむに古字家と爲る終て世に

○

月の輝きし山は花雪の山彼大能くはあまうし
師網とりてさうと云へ。ちきりる系
のほろろ子とて本物あつたの案の
くしれあまうしとてはさうあや
言成れり。この御所の御所はさうさうの思ひに
○富家 豪家 瓊亭 膏梁

○殿 殿造 閣 山楼 俗三階 扇形 亭 園 池 水 林
庭中の 臺 釣 月 帳 臺 妻 戸 園 玄 關 園 房
楊と云

臥房 櫛 千 納 戸 出 居 重 鑑 鍊 屏 築 牆
云 櫛 千 納 戸 出 居 重 鑑 鍊 屏 築 牆
筑地 築山 假山 水 門 涼 棚 敷 土 別 業 十 町
きん 下 子 庄 日 上 山 庄 日 下 庄 日

○貧家 隠者 山居 田家 用居

○草屋 一 亭 一 舎 一 堂 一 菴 茅 屋 白 屋
破 屋 散 屋 柴 門 一 扉 蝸 舎 一 廬 寒 窓
尖 頭 亭 娼 屋 葉 家 植 生 小 屋 四 阿 萱 軒

子の戸 紫戸 繩樞 仮庇 竹簀垣 延屏風

○旅舎 旅店 蕨ハ旅店の飯食と云

○館驛 エキ 駅樓 候館 傳舎 羈寓

○郭裏 遊女男

○女肆 花街 柳巷 青樓 娼家 娼門上

娼婦 娼妓 胡姬 粉頭 の称 遊女 遊女 妓女 宿

傀儡 古ふしの奴舎 女郎 室東 傾城 今遊女と云 天やま

艶女 山田 自拍子 流身 浮身 越の海をこ

白人 赤きと云ふ所と云 忘 山陰伏見乃曲部の所 花車

又石山翁分藩記云云 又云ハハ幼學須知 花車

門下通字 ハハ 花車

事 ハハ 花車

夜 和色 花車

所ニサ
公ニ
公ニ

○音曲 昂曲 俳優 戲遊 并俳優

○ 冷泉

調戸

平家

註ハ一番ニ番トシテ像ヲ
トモテ家ハ一句ニ句トシ

淨瑠璃

説セツ理リ

ウタ子ブツ
可念仏

哥必文

六

此録中如女之夢寐亦不記
其後復有夢之夢亦不記

王

以年大過

後漢書云云
漢書の根元

德節

紀元一

外記

古佐

虎
金
永
剛

卷一

河東一中

文弥一播介一爲大失

海を仙舟と業々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々

享保の
ひのあへ

國太夫

史漢記

偃師小年太

江戸傀儡

野山文集

山本五郎

と嘉人
の元祖

時名和葛玄

江戸

[illegible]

印可いんか 安忍あんじん 日本日本 綾あや

儀い 廻わ 儀い 牲せい 家童けどう 伊勢いせ

勇魚取ゆうぎと 犠牲ぎせい 伊勢いせ

世様よさま 免缺めんけつ

太々たいたい 今様いまさま

肆し 板井いたい 岩井いわい 岩間いわま の水みづ

石觸水いしふくみ 奇き 已い 心こころ 寂可畏しやくかゐ

稻目いねめ 是當いそだう 敦圀いそぎ 妨嫌はうけん

音呼おんこ 掲焉かてん 犬追物いぬおひもの

入方外いりかたがわ 依稀いし 頼たの 射向しやう

行い 漏刻ろうこく 囉ら 奇き 駟馬しりま

六時りくじ 讚さん 梵ぼん 祝いのち 半額はんがく

揆撫けいふ 源げん 花はな のの 葉守はもり の神のかみ 樹し 沐もく

放埒ハナレ 挽歌バンカ ばらハナ 小端コハタ 五

速吸ハヤスビ 名門ナカド 腹黒ハラクロ 法眷ハツケン 友トモ 反ハナ

魂香ゴニカウ 早緒ハヤヲ 腹黒ハラクロ 法眷ハツケン 友トモ 反ハナ

兄弟ハナカヲ 伊物イモノ 初瀬祈ハツセノイ 采歌サイカ 最初馬疾風ハツメハヤチ

今イマ 殷詩ハタシ 靈リウ 貌姑射ハナハタ 仙境セウキョウ 花筵ハナデン

方頭ハウヅ 無勝ムツ 尔ニ 任ニ 法ハフ 湖海コカイ

輓ニ 贄ニ 湖海コカイ

潦ニ 毛ニ 如意ニ 女御ニ 女孺ニ

甚多ニ 二半ニ 二の所ニ 女御ニ 女孺ニ

率ニ 沙本ニ 女御ニ 女孺ニ

枕ニ 任弱ニ 逃水ニ 暮露ニ

北西武士ニ 野眉ニ 豪軍人ニ 屠ニ

寂ニ 鰯矢倉ニ 肺ニ 屠ニ

祝ニ 祝ニ

序著 偏腹痛 文割 紙手 今押命 潜女

光棍 何童 又川

建 金本中臣 叔末の 爵禄

才人の 麻猪 起 慈 談 独眼人 瞽 布衣 朝後子 昨

苛家 我 早 婦 女 の 衣 布 衣 朝 後 子 昨

戒 檀 巡 信 列 善 符 衣 衣 布 衣 朝 後 子 昨

督 長 東 鑑 在 衣 耀 渡 時 胸 屋 蚕 子

麻 火 屋 後 麻 屋 頗 傾 傾 代 鷄 胡 慈 大 子

浴 室 浴 玉 和 尚 長 老 見 世 計 酒 月 十 音 子 夜 這

人 行 趣 蓬 生 夜 一 夜 天 和 和 語 又 昨 夜 五 黄 泉

風 折 鳥 帽 子 立 之 子 の 凡

丁 又 男 丁 又 下 島 又 住 子 又 夜 這

夜 一 夜 天 和 和 語 又 昨 夜 五 黄 泉

人 行 趣 蓬 生 夜 一 夜 天 和 和 語 又 昨 夜 五 黄 泉

あやを 訛り 四支 口方 田文 検帳の帳

田夫 豊夫 凡人 相明 つまの 水 新のし の

氏 軍の 園 棚牛 相厨子 答

知 季 壘 尼 竹 園 生 大 明

華子 婿 馬 風 敵 仙 伝

墮落 俗 小舟 言 雀

侍室 地 戸の 法 社 あり 井 あり 女

あやを 集 あり 集 あり 集 あり 集 あり

天子の 結婚 日本 堀 乱 あり あり あり あり

いふ 流 あり あり あり あり あり あり

いふ 流 あり あり あり あり あり あり

いふ 流 あり あり あり あり あり あり

いふ 流 あり あり あり あり あり あり

いふ 流 あり あり あり あり あり あり

いふ 流 あり あり あり あり あり あり

久りくのをいふ
女メ四シ代ダイの男ヲと云ハ村ムラにシテ終ハシるハ終ハシるハ終ハシるハ
終ハシるハ終ハシるハ終ハシるハ

福さうし
西端々々
侯各用首
福する
平仲々々々
東突の方意
炊方
子ギラウ
年根言
オヒ子エト
流

今も
 我道
 今も
 促
 必
 屈

定家ハ印
岷江入楚
初冠
遊俠
後夫

柚女とらと 雪板ゆきばん 中なかつ 浮客うきやく 起臥きふ 小こ 生なま 産う のの ことこと うちうち ありあり

ウラワカキ
 末子
 うゝハ多末
 伊物
 ウブヤシナヒ
 産養
 ウナハル
 おき
 伊物
 ウナヒコ
 哲哲反子
 ナニニナ
 子成子

歌枕ウタマクラ
有卦ウケケ
裏觸ウラフス

[illegible]

西海よりあづきと云ふ紅毛子捕りて正受坊より漁人雅々
これと捕りて内八郎と號する所(三才)和尚魚とあり

空々ぬ
ウス
 フレ
 らんらん
 とりす
 のぼき
 とらむび
 正和

りく 荷昏 室びぐしうそ 室きし 落む 烏鬼ぐー
いゝ 読びくし 糸よそ おひは 和漢の 漢字と 相當 烏鬼と

ふたゑとや　そはゆい　ふゆい可也の字を假借する
其後字よりん　とかあ　ちか　ハク、まんと垣間又ふと田

と云はせしむるに、
字づらゝちときらふ
なまの國

とつふみくろやもと
業ウラのしる
夷ウツイ(論語)
うらハ親族野ノ上、
里ノ下、

のそで 畦^{フサ} 侶^グ のハヤ のぞち 悠然 周明詩 草^{ツウ} (万)のその中畧のそめとそ佐原

もまのころろ
祝言イハコト
殷血インケツ
述者シュツシャ
九献クケン
酒サケ

玄妻 ゲンサイ 左傳 サツデン
 外在 ゲガイ
 遍匝頭西 ヘンサツトウシ
 域 イキ

元帥ケンシ 遣唐使センタウシ 形勢ケイセイ 日本日本 族族

のよねの尾山何の折れ山紀州の妙山上野辺の山
下中目光山は寺持ありとも曉ありて詠り田植は
人相 金剛經

佛ぶつ 襖ふく 袖そで 中ちゆう 也や 西せい 雲うん の
不ふ 倭や ふ 又また 敏みん 才さい 能のう 足そく 洗せん 儀ぎ な
方かた 言こと 依よ 據こ ず

らち
やど
う
懐
風
岩
凡
喪
服

風ふくむを
志シツム
恨イ
都フウト
名性者ハシラテ
芥々フミ
香ノ

負^フ何^カ 父の通へ所あるをうけあはせ 叹^フ咀^ソ 苦 腰^フ面^ツ 不^バ了^ラ附^ツ 節^フ搏^ク立^タ

將水コング
の水ミヅ
限口コモリグチ
くろいもつじん
うきゆくし
原(原)
柳女コナガハナ
通トウ

コトナリ
小舎人
（係）
まの忠名
心走
（心走）
ヒメ
名反
（名反）
まのまをこつや
（まのまをこつや）
ユツタ
紅蓮

びまの
胡コ石カ次シをくの湖ミヅをきく
てきく
所コ新ニ泉ハタ原シ
て義キコ

二六五
 膠柱鼓瑟
 胡波女香山谷達
 江湖暮敵

巾 ヒリ 笠城の ゴクイキ 大カ と名のよより 黒 コク 牡丹 オダ 牛とく たろ 黒 河

小迫合コザリアヒの兵家好事コウラス

来方ミエカタ 聲言ユエノコト 媚ヒト 是コハ 抑ソモ

拱ツミナ 木居コイ 特牛トウヒ 比及ヒキ

殿上之
 之
 出
 居
 帳
 字
 字
 字

テモスニ
母須麻呂
ヤモヤモ
方
觀面
今
テモスニ
あま

東坡詩
天^テ秋^{クス}虫^ス絲^ス
魚^{イサ}を^ツつ^ツ
グ^ググ^ググ^グ
井^イ坊^フ坊^フ
輝^テ咲^キ火^カ
芙蓉^{フヨウ}の^ノ
花^{ハナ}を^ツ詠^ツす

殿堂 たいどう
 襦袢 じゅばん
 手袖 てそで
 白絲布 しろいと
 頤和調 いわてうてう

多む既あり六玉川あま出
又或外ふ位の御布向の仇依と
重食テウバニ双六の将
出會デアヒ桑屋

街 テラ 賣 ウ 女 メ 子 コ 妙 テ 安 ア 女 メ 子 コ 天 テン 骨 コツ (宇治拾遺)

調栄 テウサイ
 照供 テウキョウ
 拊 フ
 扇 セン
 移目のあつぎと云い友
 家の常を子利あるおと

又梅あづきと云ハあこめあづきと云友孝揚一とあり又云松山
扇ハ嘉穀の乞之中啓あづきハ僧乃ハ友匡一とあり又云

俗語リ

あふ

その途へ行ふ

五
四
三

民要録

化野

やうの

三

代名
車
子

一のりふ

アマカウラ
ザ

アタマ丸

守

先生

のり

李中

一後よりみりゝぬのふきそるのふとくものふとく
あやうくおふりゝぬのふきそるのふとくものふとく
湖鏡 破ゆれらのふきそるのふとくものふとく
念 万 細引 万 下火 火とく 上可終 盛スイモ 壓状
練 求食 万の細と 嗚呼 いけき 所有 咄方
何房 沈著 ぼる ぼる ぼる 何曲 仙
浮雲 左右 詩 丁三連 詩作 朝魚 夕菜 万 彼奴
阿他弥 喧 周章 生酌 不周 風 ぬの 才 狂と

わく 万の細と 反 返 ぼるのふ 岩 醺 小石のぬの 曹司 女
のき 如 五月 權 旧夏 木 けり 弱 華 王 びく ぬの 小
中 ぼる 催馬 樂 ぼる 真物 のふとく 蛙 下 風 ぬの
み 央 色 古め ぼる ぼる ぼる 牡鹿 ぬの
道祖 道 神 再進 相府 蓮 樂の名 王 王 侯 故
百文 出 今 早苗 食 農家 草 葉 時 辰 月 座
授 授 間 ぬの ぬの 左 近 伶 征 流 離 座 具 座

の身 サシ 長 チカ 防 サヘ 佛 ブツ 澤 サハ 女 メ 々 々 鳴 ナリ 又 マタ 雨 アメ 々 々 散 チル
酬 モトメ 同 ドウ 宴 エン 迎 ムカフ 公 キミ 支 ササ 倒 サカ 堅 ガタ 曲 マギ 馬 ウマ 幸 サイ 先 サキ 晏 ヤス 安 ヤス 魚 イサ の ノ さ
肉 ニク の ノ さ ハ 食 クハ 體 タイ 又 マタ 老 オシ 瘦 シマ ね ね 不 フ 差 サ 又 マタ 待 マテ 大 ダイ 成 セイ 又 マタ 庭 テイ 洲 シュ
塞 サイ 軍 イクサ 也 ヤ 秦 シン 吉 キチ 又 マタ 待 マテ 大 ダイ 成 セイ 又 マタ 庭 テイ 洲 シュ
不 フ 祥 シャウ 惡 アク 向 キョウ 來 ライ 又 マタ 待 マテ 大 ダイ 成 セイ 又 マタ 庭 テイ 洲 シュ
印 イン 華 カ 布 フ 曝 ハク 布 フ 竹 チク 箇 コ 和 ワ 名 ナ 捲 ケル 俗 ソコ 今 イマ 俗 ソコ 又 マタ

角 ツノ 也 ヤ 蓮 レン 多 タ 吟 イン 徒 タ 然 ゼン 酒 シュ 直 チキ 狐 コ 破 ハ 里 リ 羈 キ
旅 リョ 妓 キ 園 エン 衣 イ 被 ヒ 王 オウ 宮 キョウ 之 ノ 木 キ 池 チ 估 コ 屈 クツ 几 キ 帳 テウ 魚 イサ 道 ドウ
帝 テイ 教 キョウ 天 テン の ノ 衣 イ 被 ヒ 王 オウ 宮 キョウ 之 ノ 木 キ 池 チ 估 コ 屈 クツ 几 キ 帳 テウ 魚 イサ 道 ドウ
玉 タマ 體 タイ 帝 テイ 大 ダイ 上 ジョウ 王 オウ 君 キミ 士 シ 達 タク 執 シツ 柄 ヘイ 太 タイ 臣 シン 魚 イサ 道 ドウ
九 ク 灌 カン 代 ダイ 解 ゲ 久 ク 三 サン 踏 フミ 踏 フミ

雪花菜

麒麟竭

(流志支那の暗)

祇陀林

羽衣の夕

曲录

本戸

関戸芝草... 霧之...

霧之

著長

大おの

魏々蕩々

俗あやう

木遣

邪詩木字...

間道

吟味

我慢

密理

木居

...

北の展

展の競

...

橋竹の年

...

端正

仰山

虚方附

は

不慮

...

...

靴

...

...

ゆいゝの女...

...

湯谷絶谷...

長庚

...

目成

...

...

...

...

...

めハ女メカノ不ス眼メ枯カ野客ノヤカクサリ綿ワタ密ヒツ他念タニエン醉サケ酩酊ミョウテイ

綿ワタ織オリの女巧メカ明星メイセイ日ヒは遠トホく星ホシ俗ソコの明アカリ眩クラ人ヒト者モノ

漢カン各ガク妙音講ミョウオンコウ風流フウリウ伊物イモノたびとらん

衣架イカダ妙音講ミョウオンコウ神灯カミドウ衣イ兼カン代衣ダイイ山ヤマの

神輿ミコリ振フリ大車ダイシャ三棟サントウ四棟シトウ湊ミナト筒ツツ俳席ハイセキの金鉢キンハチ

廻マワ船フネと入イる風フウ零ゼロ標ヒラ自ジ動ドウ里リを

御方ミカタ天テン平ヘイきなミ未凍ミヅコ後ノチ然シカ塵チン土ツ軍イクサ

共ニ為ニ夫婦フウフ欲ホシ見ミ方カタ診シ脈マク看ミ見ミ且ナ行ユク幸サイ

天子テンシの御幸ミサイ仙センの御幸ミサイ微妙ミョウミョウ髮ミヅ臥シ衆シュウ屈クツ衆シュウの衆シュウ

豆マメの豆マメ角ツノ板イタ舟フネ不ミ見ミ辛カラシ食シ菓カ竈カマド穴アナ選セン官カン

子女シヨメの木キ乃ナ伊イ都ツ御幣ミタマシ湊ミナト水ミヅ尻シラ山ヤマ陵リョウ水ミヅ駅エキ

次ツギ次ツギ次ツギ神ミコ田タ巾キン箱ハコ和ワ色シキ和ワ色シキ相サウ国コク大ダイ臣シン下カ下カ下カ

頻シバシバ浪ナミ白シロ浪ナミ後ノチ後ノチ後ノチ令メイ令メイ令メイ

職シヨク神ミコの

頻シバシバ浪ナミ白シロ浪ナミ後ノチ後ノチ後ノチ令メイ令メイ令メイ

新栄意 新出意 白虹 白虹の光 雪

倭文 倭文の布 山

時彼 時彼の時 危寮 知客の宿 客

諸生 諸生の後 尚齒會 尚齒會の時 良波

標 標の山 山

辛氣 辛氣の弄 新造 新造の人

万条朝文 万条朝文の白物 新造

新渡 新渡の舟 遊女

支機石 支機石の具 鋪口 鋪口の山 河

石 石の石 相 相の石 月

修好者 修好者の相 往 往の往

訛 訛の訛 富良 富良の富 木

仕途 仕途の仕 不 不の不 火

子母 子母の子 神 神の子 梁

材木 下風(左傳) ちぢ(五) ちぢ(五) ちぢ(五) 棲遑(言)

のころれ 級戸風(中臣致少) 四天二天(田陽軍鑑) 暗(見の目) 卓(卓子) 卓(卓子) 卓(卓子)

これ精進の 執筆(リ) 親句疎句(リ) 将(大将) 将(大将) 将(大将)

今これと月(月) 試樂(試樂) 試筆(試筆) 種(種) 種(種) 種(種)

衡篠雨(雨) 泣血(泣血) 差理(差理) 種(種) 種(種) 種(種)

洒(洒) 浴(浴) 然(然) 自(自) 自(自) 自(自)

絶(絶) 數鳴(數鳴) 拍浮(拍浮) 白(白) 徐(徐) 徐(徐) 徐(徐)

舌長(舌長) 重想(重想) 案(案) 案(案) 案(案)

有見(有見) 精舍(精舍) 取次(取次) 取次(取次) 取次(取次)

情強(情強) 清士(清士) 夷哥(夷哥) 夷哥(夷哥) 夷哥(夷哥)

有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁)

有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁)

有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁)

有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁) 有縁(有縁)

柄香炉 柄の香炉 煮具 煮る具 蚕簿 蚕の簿 入天 入る天 映 映る

被官 被る官 副車 副の車 被擲毛車 被る擲毛車 飛屋 飛ぶ屋

曳哉 曳ける哉 泳草 泳ぐ草 沈酒 沈む酒 電 電

鳥帽子 鳥の帽子 東曲 東の曲 膝凡 膝の凡

孫突 孫の突 一阵 一陣 時 時 雨 雨 姫 姫

前 前 愁殺 愁殺 蘿鬘 蘿の鬘 璽 璽

擯發 擯の發 非 非 慈 慈 慈 慈

歎 歎 失声 失声 順和 順和 羊步 羊の歩

斜 斜 斜 斜 敗 敗 直物 直物 日足 日足

曝 曝 曝 曝 日南北向 日南北向 藥 藥 膳 膳

飛拵 飛拵 脚夫 脚夫 日南北向 日南北向 藥 藥 膳 膳

飛拵 飛拵 脚夫 脚夫 日南北向 日南北向 藥 藥 膳 膳

飛拵 飛拵 脚夫 脚夫 日南北向 日南北向 藥 藥 膳 膳

飛拵 飛拵 脚夫 脚夫 日南北向 日南北向 藥 藥 膳 膳

彼岸太郎 彼岸太郎 世俗 世俗 日南北向 日南北向 藥 藥 膳 膳

市子居くと云ふ又館居舎の通称に又旅
宅店の通称に館やう館と云ふと云う

廬

田中の屋に又お室に
ま房 蝸房と云々

居

歩居る所へ安坐し
又人と避くを閑居と云

園

果樹と林

北地多獸と云々

此種凡俗家の作字や、文海の同字多し、
 之を省略す。今こゝにほ、爾雅、說文、韻會、字彙、正
 字通ホの趣をひくゝに記して、幼童の便す。

雅言俗語
卷末終



詩
 山性有餘
 仙
 子
 水
 石
 松
 竹
 梅
 蘭
 菊
 荷
 柳
 楊
 榆
 槐
 桐
 梓
 桑
 柘
 楸
 楠
 杉
 柏
 枞
 檫
 櫟
 栲
 欖
 榆
 槐
 桐
 梓
 桑
 柘
 楸
 楠
 杉
 柏
 枞
 檫
 櫟
 栲
 欖

接ふの物生れりて
 すきなりては
 此の世に
 生れりては



東都書林 申椒堂

江戸日本橋通室町二丁目西側
須原屋市兵衛板

陸賈新語 漢中大夫陸賈撰 蘭臺先生校 一冊

王元美尺牘 王弇州四部稿の内尺牘と撰 一冊

西京雜記 二冊

親族一覽 一冊

荆楚歲時記 一冊

荒政要覽 五冊

大疑録 貝原先生著 二冊

民間備荒録 二冊

け書はきく人のをあらわすものなり
け書はきく人のをあらわすものなり
け書はきく人のをあらわすものなり
け書はきく人のをあらわすものなり

市隱草堂詩集 初編 五冊
二編 五冊
遺編 一冊

向風草 初編 二冊
後編 三冊

龍門先生文集 二編

三冊

四聲韻選

雲閣葉先生

二冊

唐明詩鏡

桐江先生

一冊

書東式

小宮山先生著

三冊

唐明の韻字熟字と其合と唐明詩礎詩の元とわいて詩心と其の元

古五絶

西野先生輯校

六冊

明詩擢材

詩箋等の能凡をと集めて初学の爲に便りのをとり

詩家法語

西野先生作

一冊

大東地名考

一冊

寺門也入て詩と其の便のを

詩学楷梯

東里先生輯

四冊

大学小解

熊澤了介

一冊

韻字熟字の下めをて初学の爲に便りのを

詩学小成

雲閣先生著

四冊

頓悟詩傳

雲閣先生著

六冊

初学詩と其の便のを

國語畧説

松胞先生著述

四冊

孝經集註

一冊

四書集註

道春点

一冊

大学抄稿

南畝先生

一冊

増補地名箋

覆堂先生著 一冊

訓譯示蒙

徂来先生

二冊

日本の地名と其の詩文章の助と并に傍家性名字字義述の書もあつて

尺牘彙村

三冊

文草小成

雲閣先生

六冊

初学の人尺牘と其の便のをて書法式ハ四出又文句ハ古人の書法と其の便のをて

天球之圖

山路先生

一冊

翻譯地球全圖

桂川國瑞著

同畧説

天文分野天の度数日月四季行道星のをて大小名目二十八宿ありて其の星のをて

同畧説

世書ハ四世東の都邑山嶽海河峻瀆島峯産物等より著し其の書

療治茶談

津田玄仙著

一冊

けさいさなをせむすといふ切しと
なまらぬと集

同 二編

同作

一冊

茶碗茶入のつくり

幼科種痘方

唐か翻刻

一冊

わさきとせきやあつちきとあつちき

俞允便覧

鈴木文強作

一冊

針灸経緯より引くもの

難經

のれ付

二冊

物類稱呼

越谷吾山作

五冊

日本法方方言と集

龍本三代帖

松花堂門人書

三冊

同 源流帖

松花堂
並門人

一冊

同 登龍帖

松花堂門人書

一冊

東洲千字文

行書
訓点附讀書本

一冊

同 百人一首

一冊

新撰六帖

古今六帖の序と
集り及の附し

四冊

百人一首鮮

栗本氏
又これに下す

一冊

名物類聚

陶斎尚古老人作

大名物茶入之部

一冊

名物切之部

極彩色

二冊

中古茶入之部

五冊

後寛茶入 園焼茶入

茶碗 茶扱 花入

水指 茶箱 葉茶壺

釜 古硯之部

五冊

古言様

魚彦撰

一冊

かぶづいをあらわして見せし
すゑに――出所を正し

哥文要語

涼傳

一冊

六國史記式万葉集源氏物語を
古く集るのてふとて和名を安ん

和歌儀比千種

折本

一冊

は書ハ和歌の大意を
和歌のそとへハ常々
和歌のそとへハ常々

は書あり

涼傳

一冊

和歌連哥和歌のそとへハ
入りのそとへハ

沈潜のそとへハ

吾山

二冊

といふのそとへハ地名を
のそとへハ

和名類聚鈔 中良先生校正 五冊

文比表何也 十和五の法抄を案 八冊

日本地名便覽 西而抄 一冊

片歌 道のくしめ 京都 二冊

國と郡と分る名所古法城地陣書神
社佛客と分國の年月追々

紀法歌句辨 谷素外撰 二冊

信濃地名考 吉沢鷄山 三冊

同 名望川 三志と案 一冊

和歌駿州名所志 二冊

同 柏手千句 素外 一冊

萬國新話 五冊

同 江戸川 同 一冊

萬國島々の風俗草木多獸人物
國と以て之をくくはる面白

同 五色梅 同 一冊

本朝画家系譜 附後藤家譜入 一冊

同 俳諧明題集 涼師 五冊

古今の長句四季の意趣
の之をとるに流し一巻のあて

同 桐の一葉 切字義法式 二冊

同 雜談集 其角 一冊

同 古今句鑑 素外 四冊

古今の長句四季の意趣
の之をとるに流し一巻のあて

同 繪本詞德抄 同 二冊

同 拾遺 同 四冊

同 硯乃紙 紀逸撰 二冊

心学あはれ見氏 陰入 一冊

宗因發句集 二冊

入言草 後刻後入

三冊

會席料理帳

一冊

志川くさ向帳

一冊

茶湯と會席の料理と集む

生花子筋の籠

三冊

初めからいふこのまゝをさ

農業古りりから

一冊

神代卷

二冊

神武卷

一冊

機巧圖彙 同後編

五冊

此は古来のものより物并に時々の不変なるを
此は初編と云ふは此は江戸の年時斗仕儀
を細工のきまりを記し此は江戸の年時斗仕儀
細記に斗八毎日の日此を記し自記にて天
のそとに不及を記すの雨斗の如く此を記す且
此の後千暦の上より下へ示すを自記にあり

改精算法

鈴木安明

一冊

鮮惑算法

同

一冊

改正論

同

一冊

當世塵劫記

同

一冊

五

俳諧翌檜初編

出来

同

二編

近刻

丁時安永第八己亥歳夏六發行

江戸

書林

室町

須原町目

市兵衛



